



大阪日々新聞紙 号二

下總の国濱村
目置喜左衛門の

下女かひさは今年三十二あるが明治

八年三月四月二十日留小急病發死し函者の

葉も早速ふやあつたのひら木綿帯

祥きてあうこの事あつた白父長の

おけえもあつた命を落としてよう

親を呼ぶ引渡し建置手

織のあつたを語るも跡前

どれと布子の袖もぬき見せ

翌日野辺送りいゝあつたをそれく手配り棺小入を

通夜深々と更子あつたあつた棺が動き出さやがて蓋

を押し明けて死人がズット立上る小一坐の騒動出て

腫が抜ける大亦あつた撫生の後ハ次々

病氣全味せし咄ハ續賣今九号不題

花源誌



大阪日々新聞
目置喜左衛門
形像了